

日本が誇る河川再生の経験を世界に伝えよう!

"国際河川賞2016" 応募要領

Thiess International Riverprize



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

JRRN -

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

"国際河川賞2016" 応募要領 目次

- 1. はじめに~応募要領作成の目的
- 2. "国際河川賞"主催者から日本の皆様へのメッセージ
- 3. 国際河川賞 (International Riverprize) とは?
- 4. 過去の受賞河川の紹介
- 5. 応募から受賞までの流れ(必要な諸手続き含む)
- 6. 受賞した場合の義務や期待される役割
- 7. 参考資料(関連英語資料の入手先URL)
 - A) 国際河川賞2016 応募規約
 - B) 国際河川賞2016 応募ガイドライン
 - C) 国際河川賞2016 応募Q&A集
 - D) 2014年~2011年受賞河川の最終発表資料
 - E) 第19回国際河川シンポジウム(2016年9月@インド)案内

1. はじめに~応募要領作成の目的

河川再生の成功経験の共有を目的に、毎年秋にInternational Riversymposium(国際河川シンポジウム)が開催されています。この行事では、 International River*prize*(国際河川賞)として最優秀河川が毎年1つ選ばれ、河川及び環境分野に関わる名誉ある賞の一つとして世界的に認められています。

JRRNでは、本行事への参加や行事主催団体との連携を通じ河川再生に関わる多方面の方々と 交流を深めていますが、「日本には優れた実績と経験があるのに、なぜ国際河川賞に 応募しないのか?」という質問を多くの専門家より度々頂戴してきました。

2000年に最終選考まで進んだ鶴見川(旧建設省が応募)関係者、また国内の河川再生に携わる方々と意見交換する中で、「<mark>英語力</mark>」そして「動機づけ」の二つが、日本からの応募の障壁になっていると私たちJRRNは考えています。

そこで、JRRNでは、河川再生に関わる日本の素晴らしい知見の海外普及への貢献を目的に、 これら障壁を少しでも軽減したいとの思いから、公開情報に基づき本応募要領を作成しました。

国際河川賞への応募を決断し、これまでの様々な苦労と経験を熱意を込めて世界に向けて英語で発信できるのは、河川再生の担い手である皆様です。

本要領をご覧になり、International River*prize*(国際河川賞)への応募をご検討の際は、JRRN事務局 (<u>info@a-rr.net</u>) までご連絡をお待ちしております。資金面でのサポートはできませんが、応募や各申請過程における可能な範囲の助言と支援にご協力させて頂きます。

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

2.主催者から日本の皆様へのメッセージ

International River*prize*(国際河川賞)を主催するInternational RiverFoundation(国際河川財団)とJRRNは継続的に交流を深めております。本年の国際河川賞への日本からの応募に向け、国際河川財団より日本の皆様に向けたメッセージをご紹介します。

日本で河川・流域再生に取組む皆様へ

河川賞は、河川、湿地、湖沼の持続的な管理に向けた努力を報い、支援することを目的に私たち国際河川財団が主導し企画するものです。

そして、これまで世界中の組織・団体が国際河川賞に輝き、価値ある名誉と称賛を得てきました。

本年の国際河川賞への応募は2016年3月11日(金)まで受け付けています。応募申請は国際河川財団の以下のホームページをご覧下さい。 http://www.riverfoundation.org.au/riverprize_entering.php

日本の皆様のご応募をお待ちしております。

2016年1月21日





Charlotte Spliethoff,

BUSINESS DEVELOPMENT & PROGRAM MANAGER,

INTERNATIONAL RIVERFOUNDATION

3. 国際河川賞 (Int. Riverprize) とは? 1/2

1. オーストラリア・ブリスベンに本部を置くInternational RiverFoundation(国際河川財団)が 授与する5つの河川賞 (Riverprize) の一つで、① International Riverprize(国際河川賞)は 1999年から、②National Riverprize(オーストラリア国内河川賞)は2001年 から、その後も ③ European Riverprize(欧州河川賞)、④ North American Riverprize(北米河川賞)、⑤ New Zealand Riverprize(ニュージーランド河川賞)が創設され、いずれの河川賞も「河川管理 の特に優秀な業績」に対して授与される。

国際河川賞に関わる関連情報(英語)は以下は以下を参照:

http://www.riverfoundation.org.au/riverprize_international.php

2. International RiverFoundation(国際河川財団)が毎年主催するInternational Riversymposium (国際河川シンポジウム) において、国際河川賞最終選考河川(4河川前後)の最終発表、及び最優秀河川(1河川)の選定と授与式が行われる。(最終選考河川は本シンポジウムへの参加が義務となる。→2016年は9月12日~14日にインド・ニューデリーで開催)

国際河川シンポジウムに関わる関連情報(英語)は以下を参照:

http://riversymposium.com/

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

3. 国際河川賞 (Int. Riverprize) とは? 2/2

3. 過去(1999年~2015年)の国際河川賞受賞河川の内訳は、北米6河川、欧州5河川、アジア4河川、中東1河川、アフリカ1河川。日本からは2000年に鶴見川(旧建設省がエントリー)が最終選考まで進んだが受賞歴はない。過去の受賞河川は国際河川財団のウェブサイトで紹介され、また国際河川財団が不定期に発行する受賞河川紹介冊子(River Heroes Report, River Journeys等)にも詳しく掲載される。

過去受賞河川のテーマ別紹介に関わる情報(英語)は以下を参照:

http://www.riverfoundation.org.au/riverprize case studies.php

- 4. 2016年の受賞賞金はAU\$200,000 (日本円で約1,600万円 ※1AU\$=80円で換算)。更に他国への技術協力(twinning project)を実施する場合はAU\$100,000も追加支払いされる。2015年受賞河川(オーストラリア・Eyre湖流域)の優勝賞金はAU\$500,000、2013年受賞河川(ケニア・Mara川)の優勝賞金はAU\$300,000と賞金は年により変動。
- 5. 国際河川賞受賞のメリットとして、上記賞金以外に主催者は以下を例に挙げている。
 - ✓ 優れた河川再生の取り組みとして、地域、国内、世界でその組織の貢献が高く評価される。
 - ✓ 事業に対する社会的信用が増すことに伴い、更なる再生活動に対する外部からの資金面などの支援を得やすくなる。
 - ✓ 知名度向上により、国内及び海外の河川再生関係機関との連携が更に深まる。
 - ✓ 翌年の分科会主催や技術協力事業の実施で貴重な教訓を他へ伝えることが促進される。

4. 過去の受賞河川の紹介(国際河川賞) 1/3

年	受賞団体名	河川名	国名	最終選考数	技術協力(Twin)
2015	Lake Eyre Basin Partnership	Eyre湖流域	オーストラリア	3	?
2014	River Rhine	ライン川	欧州全関係国	4	?
2013	Mara River Water Users Association	Mara/	ケニア	4	なし
2012	Willamette River Initiative	Willamette	アメリカ	4	なし
2011	Charles River Watershed Association	Charles JII	アメリカ	3	0
2010	Environment Agency	テムズ川	イギリス	4	0
2009	Lake Simcoe Region Conservation Authority	Simcoe湖	カナダ	5	0
2008	St Johns River Water Management District	St. Johns JII	アメリカ	3	なし
2007	Int. Commission for the Protection of the Danube River	ドナウ川	オーストリア	4	0
2006	Chengdu Sha River Restoration Project Incorporation	Sha JI	中国	4	なし
2005	Communaute de Communes du Val de Drome	The Drôme JII	フランス	5	0
2004	Siuslaw Institute	Siuslaw JI	アメリカ	4	0
2003	Alexander River Restoration Project	Alexander JII	イスラエル	5	0
2002	Mekong River Commission	メコン川	メコン委員会	5	なし
2001	Blackwood Basin Group	Blackwood JII	オーストラリア	4	なし
2000	Grand River Conservation Authority	Grand /	カナダ	4	0
1999	Mersey Basin Campaign	マージ川	イギリス	1	なし

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International River*prize*2016 応募要領 / 2016年1月

4. 過去の受賞河川の紹介 (国際河川賞) 2/3



※過去の受賞河川の概要紹介(英語)は「7.参考資料」を参照。

◆ 4. 過去の受賞河川の紹介 (国際河川賞) 3/3

年	河川名	国名	主な特徴 (キーワード等)
2015	Eyre湖流域	オーストラリア	マルチセクター協働、湖沼保全再生、地域活性化
2014	ライン川	欧州全関係国	国際河川、水質改善、生態系回復、統合的管理
2013	MaraJ	ケニア	国際河川、統合水資源管理、マルチセクター協働
2012	Willamette	アメリカ	水質改善、協働、氾濫原再生、地域活性化
2011	Charles JII	アメリカ	半世紀に及ぶ面的汚染源除去の流域仮、水質改善、各種専門家連携
2010	テムズ川	イギリス	60年に及ぶ死の川からの環境再生、マルチセクター協働、異常気象対応
2009	Simcoe湖	カナダ	流域レベル環境保全、流域住民連携、流入河川管理
2008	St. Johns JII	アメリカ	湿地再生、氾濫原再生、表流水・地下水管理
2007	ドナウ川	オーストリア	国境河川の監視強化と水管理、協働、水質改善
2006	Sha JI	中国	都市河川の水質改善、洪水防御、景観再生、自治体連携
2005	The Drôme JII	フランス	20年に及ぶ水質改善、生物多様性、洪水防御、泳げる川再生
2004	Siuslaw JI	アメリカ	サーモン回帰、マルチセクター協働、自然再生、浸食防止、流域保水
2003	Alexander JII	イスラエル	政情不安定下での計画立案、協働、水質改善、環境配慮型河川公園
2002	メコン川	メコン委員会	国際河川の統合的水資源管理、環境保全、持続的開発
2001	Blackwood JII	オーストラリア	統合流域水管理計画、土地利用者連携、水質改善、植生再生
2000	Grand JII	カナダ	半世紀に及ぶ協働型河川再生、水質改善、魚類再生、土砂管理
1999	マージ川	イギリス	25年スパン再生計画遂行、水質改善、マルチセクター協働、都市再生

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 1/8

5-1. 応募に際しての基本事項

※以下は応募手引き(Guideline)及び規約(Terms and Conditions)より重要事項を抽出整理。

- 1. 応募資格は、「河川流域管理、再生、保全に携わる組織またはグループ」。河川の 規模や予算の大小は無関係に、河川生態系の改善に関わる優れた(統合的、革新的 な)業績を有する団体が応募可能。但し、受賞団体は受賞後10年間は応募不可能。 (最終選考河川は連続の応募が可能)
- 2. 応募申請は専用ウェブサイトを介した英語による電子申請(一次・二次)に基づき審査し、最終選考河川(4河川前後)は2016年9月の第19回国際河川シンポジウム(インド・ニューデリー開催)に自費で参加し最終発表を行い、受賞河川が決まる。(シンポジウム参加が条件)
- 3. 申請過程で提出した関連資料は国際河川財団に帰属し、教育や資金獲得のための諸活動を目的に、国際河川財団ホームページ等で利用される。
- 4. 受賞河川に課された義務を事前に確認の上で応募すること。(第6章で詳述)
- 5. 審査過程において審査員と交流を持つことは禁止されている。

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 2/8

5-2. 審査の視点等

※応募Q&A(Frequently Asked Questions)等より関連事項を抽出整理。

- 1. 国際河川賞の審査員 (2015年) ※2016年の審査員は本年の応募〆切迄に公表予定
 - Prof. Bill Dennison (Chair) Vice President for Science Application, University of Maryland (USA)
 - Prof. Eva Abal Chief Scientist, International Water Centre (Australia)
 - Prof. Stuart Bunn Director, Australian Rivers Institute, Griffith University (Australia)
 - Mr. Bart Fokkens Chairman, European Centre for River Restoration (The Netherlands)
 - Dr. David Garman Founding Dean of the School of Freshwater Sciences, University of Wisconsin (USA)
 - Mr. Alan Vicory P.E, BCEE Principal, Stantec (USA)
 - Ms. Gayle Wood Chief Administrative Officer, Lake Simcoe Region Conservation Authority (Canada)
- 2. 審査のポイント(キーワード)
 - 河川生態系の健全性を維持もしくは再生するための科学的知見に根ざした事業遂行の有無
 - 河川流域管理に関わる統合的な証拠(education programs, cultural and indigenous engagement, economic considerations, scale of the approach, challenges faced, innovative approaches or "wow" factors, gender or health issues)
- 3. 上記審査を行う上で効果的なデータ類
 - 河川流域管理に関わる計画やモニタリングデータ、教材等(River or Catchment Management Plans, Annual reports, Partnership agreements, Water quality monitoring data, Environmental Management Plans, Education programs, Communication strategies, Photographs from events held, Media articles focused on the program, Journal articles)

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 3/8

5-3. 応募から受賞までの流れ、要する準備、概算費用の概要

No.	段階	時期•期限	方法・要する準備等	概算費用
1	応募準備	2016年1.1~	・応募申請の簡易web手続き	なし
2	一次応募	2016.3.11	・申請様式のweb入力 ・申請様式(A-C)をweb最終申請	なし
3	一次審査発表	2016年3月下旬		なし
4	二次応募	2016.6.3	申請様式(D-F)のweb入力添付資料類の作成上記一式をweb最終申請	なし
5	二次選考発表	2016年7月上旬		なし
6	最終発表準備	2016年7月~	会議参加登録、出張手配(航空券等)動画素材収集、動画作成 →事前提出最終発表ppt資料作成	• 会議登録費10万/人 • 動画作成費
7	最終発表会 (自己PR)	2016.9.12	9/12(月)-14(水)までインド滞在約20分のpptによる口頭発表と質疑応答	• 渡航費
8	最終審査 受賞式典	2016.9.13	・最終発表会(兼・晩餐会)参加 ・(受賞の場合)スピーチ+翌日ロ頭発表	なし

※上記の概算費用は、翻訳費や通訳費等は含まない。英語素材準備は直営実施を前提としている。

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 4/8

5-4. 一次応募に向けた準備作業(2016年3月11日 🗸 切)

※以下の申請手続きの〆切は2016年3月11日。

1. 応募申請のオンライン初期登録手続き

国際河川財団(International Riverfoundation)ウェブサイトより、応募に関わる初期登録を行う。(担当者氏名、email、電話番号、組織名、国名のみを登録)

https://www.riverfoundation.org.au/riverprize entering.php

2. 一次応募(電子申請)に必要な情報の収集、整理

応募様式を確認し、「応募担当者連絡先、申請組織プロフィール、申請内容の背景や歴史、関与した団体の役割分担、実績概要、及びこれまでの成果の履歴等」に関わる情報を収集、整理する。

3. 一次応募様式へのオンライン入力

上記登録ページ内の応募様式に、必要事項を所定の文字数の範囲で記載する。なお、入力途中の保存が可能なため、一度で入力を完了させる必要はない。 (一次応募に際しては、添付ファイル等の付属資料の提出は求められない)

4. 一次応募様式のオンライン申請

全ての必要項目を入力完了後、'submit' ボタンを押してオンライン申請する。

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 5/8

5-5. 二次応募に向けた準備作業(2016年6月3日〆切)

※3月下旬に一次審査結果が届き、以下の手続き〆切は2016年6月3日。二次応募も、 一次応募同様にオンライン電子申請となる。基本的に、一次申請内容をより詳細 に説明するための背景情報の提供が求められる。

1. 二次応募(電子申請)に必要な情報の収集、整理

二次申請に向けて、再生事業を効率的に推進する上での重要事項として、「河川再生・管理の全体概要、社会経済的背景、長期ビジョン、活動を通じて得た教訓」に関わる情報を収集、整理する。また、3名の中立的な審判を選定する。この審判は、必要に応じて申請内容について国際河川賞審査員が意見を求めたり問合せを行う。

2. 二次応募様式へのオンライン入力

上記申請登録ページ内の二次応募様式に、必要事項を所定の文字数の範囲で記載する。入力途中の保存が可能なため、一度で入力を完了させる必要はない。 (二次応募に際しては、申請内容証明として付属資料提出も必要となる。)

3. 二次応募様式のオンライン申請

全ての必要項目を入力完了後、'submit' ボタンを押してオンライン申請する。

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 6/8

5-6. 最終発表(PR)に向けた準備作業(2016年夏迄)

※7月上旬に二次審査結果が届き、最終選考進出河川が確定する。これ以降、2016 年9月の最終選考(=シンポジウム参加)に向けた準備を行う。

1. シンポジウムの参加登録及び渡航手配

最終選考河川は、自費でのシンポジウム登録と最終発表会の参加、また最終選考後の受賞式典出席が義務となるため、シンポジウム登録ページより参加登録手続き及び航空券や宿泊の手配を行う。(人数の条件はないが、最低1名は参加する。)

2. 受賞式典で上映される動画の準備、送付 (すべての最終選考河川が上映)

受賞式典で上映する動画(10-12分)を準備し送付する。過去の動画は以下参照。

□ 2015年 国際河川賞 最終選考3河川 紹介動画(約14分)

URL: https://www.youtube.com/watch?v=KO5wQ10Ldjw

□ 2014年 国際河川賞 最終選考4河川 紹介動画(約13分)

URL: <u>https://www.youtube.com/watch?v=e7IZVE7Irkc</u> 3 2012年 国際河川党 皇教選表4河川 郊介新南(約114)

□ 2013年 国際河川賞 最終選考4河川 紹介動画(約11分)

URL: http://www.youtube.com/watch?v=9z1guvrVgLl
□ 2012年 国際河川賞 最終選考4河川 紹介動画(約12分)

URL: http://www.youtube.com/watch?v=yW3UlpVvmew

□ 2011年 国際河川賞 最終選考3河川 紹介動画(約12分) URL: http://www.youtube.com/watch?v=fiJk-QR3ZT0

3. 最終発表でのプレゼンテーション資料の作成

最終選考会に向け、約15分程度の発表PPTおよびシナリオを渡航までに準備する。

JRRN

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 7/8

5-7. 国際河川シンポジウム参加と最終発表 (2016年9月)

1. 第19回国際河川シンポジウムへの参加(2016年9月12~14日) 参加登録や準備調整会議、参加者への事前PR、発表等を目的に全参加が必要。

2. 最終選考河川による合同発表会への参加(2016年9月12日予定)

最終選考河川(4河川前後)による合同発表会が行われ、その後開催される「最終審査」を経て、受賞河川1河川が確定する。各河川の発表時間は開催年により異なるが、10分~15分程度で、各最終選考河川が自己PRをパワーポイントの発表形式で聴講者及び審査員に対して行う。





最終選考河川による発表会



2010年 2012年

2012年 2015年

5. 応募から受賞までの流れ (諸手続含) 8/8

5-8. 受賞式典参加と受賞記念発表(2016年9月13日)

1. 受賞式典への参加

シンポジウム二日目の夜(18時半~23時半)に受賞式典を兼ねた「Gala Dinner(晩餐会)」が盛大に開催され、最終選考全河川の動画紹介を経て、受賞河川が発表され、賞金とトロフィーが授与される。また受賞河川はこの場でスピーチを行う。

2. 受賞翌日の発表会参加

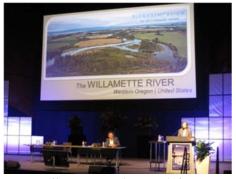
通常、シンポジウム三日目の朝に、基調講演(分科会ではなく全体行事)として受賞 河川の発表が行われる。ただし、前日の最終発表会の内容と同一でよい。



Gala Dinner(2015年)



受賞式(2012年)



受賞翌日の発表(2012年)

JRRN

7

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International River*prize*2016 応募要領 / 2016年1月

6. 受賞した場合の義務や期待

※受賞後の諸活動は賞金を用いての活動となる。

1. 【義務】翌年(2017年)の国際河川シンポジウム参加と特別セッション主催

受賞した取組の知見の更なる普及を目的に、翌年(2017年)の国際河川シンポジウム(オーストラリア・ブリスベン開催予定)で特別セッションを開催する。

2. 【義務】受賞を受けての公式発表

受賞の社会的インパクト、また賞金の用途などについて国際河川財団に報告する。

3. 【義務】受賞に至る過程に関わる概要報告の提出

関係団体との共有を目的に、受賞に至る過程を整理し概要を国際河川財団に報告する。(具体的にどの様な内容を報告するかは未定)

4. 【期待】他国への技術協力事業(twinning project)の実施

受賞した取組の知見を他の途上国へ普及するための技術協力事業(twinning project)を受賞後24カ月以内に提案することが可能。技術供与パートナーが確定後、3~5年の事業を実施することができる。(この技術協力事業を実施する場合、受賞賞金とは別にAU\$100,000 〈日本円で約800万円〉が追加で支払われる。)

7. 参考資料 (関連英語資料の入手先URL)

A) 国際河川賞2016 応募規約

URL: https://www.riverfoundation.org.au/riverprize_entering.php (左記ページからダウンロード可能)

B) 国際河川賞2016 応募ガイドライン

URL: http://www.riverfoundation.org.au/admin/file-library/2016%20Thiess%20International%20Riverprize%20Application%20Guidelines.pdf

C) 国際河川賞2016 応募Q&A集

URL: https://www.riverfoundation.org.au/admin/file_library/2016_FAQs_ALL%20categories.pdf

D) 2014年~2011年受賞河川の最終発表資料

□ 2014年「River Rhine, Europe」

URL: http://riversymposium.com/wp-content/uploads/2014/10/C1 Thiess-International-Riverprize.pdf

□ 2013年「Mara River, Kenya」

URL: http://riversymposium.com/wp-content/uploads/2013/10/2013Proceedings_B2D_Mara-River.pdf

□ 2012年「Willamette River, USA」

URL: http://riversymposium.com/wp-content/uploads/B2A_Willamette-River.pdf

□ 2011年「Charles River, USA」

URL: http://archive.riversymposium.com/index.php?element=C1+Charles+River.pdf

E) 第19回国際河川シンポジウム(2016年9月@インド)案内

URL: http://riversymposium.com/

JRRN - -

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

Thiess International Riverprize2016 応募要領 / 2016年1月



日本河川・流域再生ネットワーク

"国際河川賞2016" 応募要領

作成日: 2016年1月27日(水)

作 成: 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

事務局(連絡先): 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所内 Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640

E-mail: info@a-rr.net URL: https://www.facebook.com/JapanRRN

※JRRN事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、 公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

>))) ☆益財団法人 || リバーフロント研究所

TI 監建設技術研究所 国土文化研究所

JRRN